



魔法の言葉「かんごしきまます」

【山口県】中野 淳子 なかの じゅんこ 47歳

この冬、今まで感じたことのないほどの腹痛に襲おそわれた。すぐに検査をした結果、虚血性大腸炎と言われ、10日間入院することになった。お産以外初めての入院で、不安しかなかった。

そこで大変だったのが主人。家事、洗濯、子どもの送迎からお弁当作りまで、普段の生活以上に働いてくれた。もちろんほぼ毎日お見舞いに来てくれ、それが一番の薬になった。本当に感謝している。でも、もっと感謝したいのは看護師さん。朝昼夕に加え夜中まで忙せわしなく動き回ってくれた。そして私は、看護師さんの魔法の言葉「かんごしきまます」を発見した。

① かわりないですか
② んーと、中野さん

③ ご飯全部食べられましたか
④ 失礼します
⑤ 今日担当の〇〇です
⑥ 気分はどうですか
⑦ また何かあれば言っして下さい
⑧ すぐ行きます

これらのすばらしい魔法の言葉を、看護師さんの誰もが発していることに気付いた。それ、ゆつくりと丁寧に優しい口調で。どんな痛みがあっても、魔法の言葉に伝えるだけで心穏やかに、気持ち安らぐ。こちらも自然と「ありがとうございます」と笑みがこぼれ、目尻が下がるのが自分でもよく分かったほどだ。

多少人によりイントネーションが違うが、それもまた面白い。なぜこの魔法の言葉が浮かんだ

のか。いや浮かんだのではない。毎日聞いていて耳に心地良かったのだ。隣の患者さんに行かれてもカーテン越しに聞こえるあの声にとっても癒された。

10日間はあっという間だった。もう入院したくないが、あの看護師さんの魔法の言葉だけ聞きたいなと思いつつ、病院をあとにした。